

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991700129		
法人名	社会福祉法人 泉茅会		
事業所名	グループホームめぐみ登美		
所在地	山梨県甲斐市龍地5217-1		
自己評価作成日	令和元年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	令和元年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、周辺地域に緑あふれる自然に恵まれた環境にあり、地域の風景に融和した純和風を取り入れ利用者様に配慮したつくりとなっている。  
ホームでは利用者、職員と日々調理などをとらに行っています。  
また併設施設系列の医療機関が近くにあり、連携し安心した生活に努めている。  
笑顔で優しく接し、安心して生活をして頂けるよう努めている。  
利用者のニーズを察知し、サービスの提供に努めています。  
利用者の人格を尊重して家庭的な雰囲気生活して頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は広々とした敷地に日本家屋風の平屋造りの特別養護老人ホームに併設している。2ユニットを1丁目、2丁目とし居室には番地を表示して一戸の家に見立てている。幹線道路に面し、周囲に保健福祉センター、小学校、消防本部、スーパー、公園等がある利便性の良い場所に立地している。開所してからまだ2年目であるが、法人の理念「笑顔」を踏まえた事業所目標「和やかにゆったりとした生活を支援します」を掲げ、全職員が利用者一人ひとりに向き合い、地域の一員として安全で安心した生活を送れるように支援している。事業主体が医療法人であり、利用者の健康面のサポートも充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめぐみ登美		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>1. 理念に基づく評価</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、管理者と職員は常に念頭におき実践に努めている。	事務所内に事業所の理念が掲示してあり、共有しながら実践に繋げている。	「笑顔」を理念とし「和やかにゆったりとした生活を支援します」を事業所目標に掲げ、事業所内に掲示している。職員各自の記録ノートを活用し、毎日のケアを意識づけし、毎月の職員会議やミーティングの時に確認し共有している。笑顔で利用者に接することで馴染みの関係をつくり思いを受け止めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩などで、地域の方と交流が持てるように配慮している。様々な行事でのボランティアの方とも交流を持てるよう努めている。	日常的な散歩などで、地域の方と交流が持てるように配慮している。様々な行事でのボランティアの方とも交流を持てるよう努めている。	事業所に隣接した畑に来ている人と挨拶をかわしたり、周辺の様子を見る事を楽しみにしている。月2回、特養にある地域交流センターでボランティアの方が喫茶を開催しているのでコーヒーを飲みに行っている。小学生が来所し折り紙等で交流したり、太鼓のボランティアを受け入れた。自治会に加入し情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、サービスの実践や、取組みについて等報告話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を開催し、サービスの実践や、取組みについて等報告話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	年間6回以上、特養と合同で開催している。地域の方、家族、利用者、行政担当者、施設長、事務長等が参加している。家族から事業所での一日の流れを知りたいという意見があり対応した。会議録を作成し、面会時等に家族に渡している。参加者からの意見をサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加を頂き、実際の活動報告を行い相談するなど密に連絡を取り合っている。また、入居などの相談も行っている。	運営推進会議に市職員の参加を頂き、実際の活動報告を行い相談するなど密に連絡を取り合っている。また、入居などの相談も行っている。	運営推進会議に市の担当者を招き、事業所の活動状況を報告し、助言を受けたり情報交換している。日頃から入居の相談を受けたり、窓口担当者と話す機会も多く連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束防止委員会を開催する他、勉強会なども行い身体拘束についての理解に努め、ケアに活かしている。	身体拘束防止委員会を開催している。身体拘束ゼロの手引きにしたがって、現在も拘束を行わずケアに取り組んで入る。	法人全体で月1回、身体拘束防止委員会を開催し代表者が出席している。内容は記録し、連絡ノートで共有したり、資料を基に勉強会で話し合っている。特にスピーチロック防止に向け、気付いた時には職員同士で注意合っている。玄関から出ていく方もいるが職員が関わり対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、在宅や施設での虐待が見過ごされないように注意し、虐待防止の徹底に努めている。	虐待防止委員会を開催している。日々のケアの中でも言葉遣いなどに十分注意し虐待防止の徹底に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業所や成年後見制度についての資料等を閲覧できるようにしている。	職員が成年後見制度の研修会に参加し、理解、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめぐみ登美**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見要望を日々の中からも伺うようにし、その情報を職員間で共有し運営に反映できるように努めている。	運営推進会議において意見交換を行い、利用者やご家族の意見を表に出せる機会を設け、運営に反映している。	意見箱の設置を考えているが、日頃から面会に来所する家族が多いので、直接話す機会がある。職員の方から積極的に話かけることで、いろいろな意見を聴くことができる。窓からの光が眩しいという意見があり、カーテンを設置して対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡帳等を活用し意見や提案の収集をしている。	職員会議や面談などを設け、意見や提案を聞く機会を持っている。	月1回職員会議を実施して意見交換し、内容は連絡ノートを使って共有している。法人全体の主任者会議も月1回開催されるので情報交換の機会がある。管理者と相談できる場があり、勤務、待遇、備品等職員の意見が反映される機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどをを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどをを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の職員との交流をもちや報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。	同法人の職員との交流をもちや報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒に、自己決定や選択などと共に暮らす関係に努めている。	できることを職員と一緒に、自己決定や選択などと共に暮らす関係に努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめぐみ登美**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援しているよう配慮している。	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援しているよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	家族の対応で毎週自宅に戻る、馴染みの店で散髪する、墓参りに行く等外出する利用者や友人、近所の方、同級生等が面会に来る利用者、携帯電話で家族と話すのを楽しみにしている利用者等これまでの関係が継続し、楽しみや安心感がある生活になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	入居時のサービス担当者会議で聴き取った内容を基本とし、日々の様子や会話等から意向を汲み取っているが特に入浴の際には体も心もゆったりできるので、いろいろな話を聞くことができる。コミュニケーションが困難な場合は表情や家族の意見を参考にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握を、申し送りノートや各種チェック活用し日々努めている。	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握を、申し送りノートや各種チェック活用し日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイデアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイデアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	入居に向けては相談員等が家庭や施設等を訪問し聴き取り、入居時のアセスメントを基に介護計画を作成する。入居後2週間をめぐり全職員でモニタリングして1ヶ月で見直すが必要であれば3か月から6か月でモニタリングする。変化が生じた場合には、医師、家族に相談し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている		



（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめぐみ登美**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (1丁目)	ユニット名 (2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、また健康 喜び 安心のある生活が送れるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。	本人やご家族の状況、また健康 喜び 安心のある生活が送れるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方によるボランティアや、理容サービスなど豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方によるボランティアや、理容サービスなど豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及びご家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ずご本人、ご家族合意の上かかりつけ医にて適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は必ずご本人、ご家族合意の上かかりつけ医にて適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に法人の協力病院を受診してもらい、かかりつけ医としている。受診は基本的に家族対応なので、日頃の様子は受診表で伝えている。事業所の向かいに歯科医があるので、受診しやすいが必要に応じて訪問診療もできる。家族が付き添えない場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期受診を通じて日頃から情報交換を行っている。入退院時には病院と随時連絡を取り合っている。まためぐみフェスタなどの行事を通じて交流を図っている。	定期受診を通じて日頃から情報交換を行っている。入退院時には病院と随時連絡を取り合っている。まためぐみフェスタなどの行事を通じて交流を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と検討し、事業所ですべてを十分に説明を行っている。医療機関とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族と検討し、事業所ですべてを十分に説明を行っている。医療機関とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	家族との話し合いで重度化や看取りの対応をしている。入居時に同法人の特養への申込みを勧めている。まだ、開所間もない状況であるが、グループホームでの看取りを希望する場合も医療、看護体制が整っており、安心して過ごせる環境にあり、支援体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修により事故発生時の対応に備えている。また緊急時のマニュアルも用意しており、適切な対応に努めている。看護職員により救急法の指導を受けている。	内部研修により事故発生時の対応に備えている。また緊急時のマニュアルも用意しており、適切な対応に努めている。看護職員により救急法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回行っている。避難経路図も掲示しており把握に努めている。訓練後には改善点等を話し合うようにしている。	災害時の避難訓練を年2回行っている。避難経路図も掲示しており把握に努めている。訓練後には改善点等を話し合うようにしている。	年2回、法人と合同で訓練を実施している。地震や火災を想定したり、夜間想定訓練もしている。訓練後には評価し反省点などを話し合っている。事業所内に避難経路を掲示している。通報訓練や車椅子の利用者避難の方法などが課題となっている。	管轄地域の消防署に相談して避難訓練を実施し、専門的な立場から利用者の状況や事業所内を見てもらうとともに、助言を受けることでスムーズな避難に向けて、利用者と職員の経験を積むことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	入浴時について立てやタオルで目隠し、トイレ誘導のタイミングや声のトーンにも配慮している。呼称は基本、苗字で呼び言葉使いや方言等も利用者に応じて、支援している。洋服の準備も利用者と共に、好みや意思を尊重している。書類は周囲の目に触れない場所に保管している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめぐみ登美**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やペースに合わせ、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。	個々の希望やペースに合わせ、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。また口腔体操を行い安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。口腔体操を行うことで安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	献立は管理栄養士が作成し、食材は前日の夕方に届き事業所で調理する。年1回嗜好調査もある。季節の食材を使い、誕生日の特別メニューが出るなど利用者の楽しみとなっている。出来る方は職員と一緒に食事準備や片付けをしている。職員も一緒に食事をし、利用者との会話や食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	排泄記録表を使い、利用者の一日の状況を把握している。午後のひとは事業所内の1丁目から2丁目を往復し、歩行訓練し立位が保てるように支援している。立位が取れない場合はオムツを使用するが出来るだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	週3回入浴を予定しているが、散髪があった日は入浴する等利用者の状況により変更している。、特殊浴の場合は特養の浴室を使用できる。個人持ちのシャンプーを持ち込むことは可能だが、今は事業所で購入した物を使っている。現状では入浴を拒否する方もなく楽しみにしている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	敷地が広く、特養との渡り廊下に出ると外気に触れられ、お茶を楽しむこともできる。日々、敷地内を散歩をしたり、近くにある同法人の別棟施設に出掛けて東屋で休憩することもある。公園には季節の花が咲き、楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮している。	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮している。	事業所内には、ステンドグラス風の額が複数あり、親指姫の童話をモチーフにしたストーリーが楽しめるようになっている。日中は差し込む光に、夜間は照明に反応して色鮮やかな絵が目を楽しませている。利用者の作成した飾りや習字も掲示され、活動の様子が窺える。明るい配色のソファやキッチンが利用者には喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファ、畳の間では座って談笑されたり、寝転んでくつろいだりと利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。	共有スペースにソファ、畳の間では座って談笑されたり、寝転んでくつろいだりと利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。	居室の入り口には、番地が記されたり、季節の飾りが置かれている。ベッド、カーテン、クローゼット、エアコンが備わっている他、部屋ごとに電気メーターが設置されている。利用者は椅子やテーブル、テレビ、家族の写真等馴染みのある品を置いて清潔で居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札を付けたり、入り口に飾り付けを行い個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。	居室の前には表札を付けたり、入り口に飾り付けを行い個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。		